

香川のみんな、なんしょんな？

～University Radio Project～

代表者 杉野 航洋（教育学部学校教育教員養成課程4年）

1. 目的と概要

このプロジェクトは、ラジオ番組「Art Time Junction」の制作を通して「香川大学生が香川を伝える」という取り組みである。私たちのプロジェクト『Radio18』は様々な方のご支援をいただき、8年目の活動を終えることができた。今年度の活動テーマは「香川のみんな、なんしょんな？～University Radio Project～」と題し、香川の地域密着型コーナーを主軸とした番組作成を行い、香川の魅力を発信してきた。今年度は新型コロナウイルスの影響から直接的な取材やゲストスピーカーをお呼びすることが難しかった。そこで、私たちが街歩きや取材場所に訪れ、それをもとにゲーム化したコーナーなどを作成することで、外部との接触をなるべく抑えた状態での番組作成を行った。本プロジェクトの番組はFM高松にて2020年の8月から2021年の3月にかけて毎月第4水曜日22時から23時の60分番組を放送し、合計8本、制作した。

2. 実施期間（実施日）

令和2年8月～令和3年3月31日まで

3. 成果の内容及びその分析・評価等

本プロジェクトは、FM高松にて毎月第4水曜日の22時から23時までの1時間、「Art Time junction」という番組を作成している。今年度は「香川のみんな、なんしょんな？」を年間のテーマとし、新型コロナウイルス感染防止対策を行いながら県内取材を行ってきた。毎回違う地域を取り上げて取材を行い、その場所についてのプレゼンや香川に関するクイズをコーナー化して放送してきた。11月29日には取材ができる最

少人数の2人で四国水族館への取材を行なった。それをもとに1月放送分では「四国水族館注目ポイントプレゼン大会」と称し、四国水族館の魅力について紹介した。このように何度か取材をすることはできたが、昨年度ほどの取材はできなかったため、掲げたコンセプトをより追求していくために、香川大学生をゲストに招いたフリートークコーナーや学生団体へのインタビューも放送してきた。



図1 普段の収録の様子

また、ラジオ番組以外にも様々な活動を行ってきた。例年、我々と同じように学生でラジオ番組を作成している立命館大学と広島経済大学との交流会を行なっているが、今年度は対面での交流会は感染状況に考慮し、リモートで開催した。それぞれの団体が新型コロナウイルスの感染拡大対策を行いながら活動を継続しており、それぞれが行なっている工夫や対策、番組で取り上げている話題などについて意見交換をした。12月14日には、ラジオパーソナリティーをされているリンクアップ・とっしー氏による講演会を開催した。1分間の「お題フリートーク」や「ワード連想ゲーム」を行い、語彙力や対応力の鍛え方を教えていただいた。また、普段苦戦している「トークのオチの付け方」や「トークの流れ」などへの質疑応答も行なった。そのほかにも、小学生にラジオ番組に触れていただく機会を提供する「子どもセミナー」の開催を予定していたが、新型コロナウイルスの影響により開催を断念した。

新型コロナウイルス感染拡大防止対策としては、zoomを用いた自宅での収録や人数を制限しての対面での収録、アクリル板を使用した飛沫感染対策など、香川大学の感染症対策指針に沿うような対策を行ってきた。また、申請当時には東京研修を予定していたが、物品購入に代替をし、番組の質の向上や取材の容易化を図ることができた。

4. この事業が本学や地域社会に与えた影響

このプロジェクトの実施により、「地域に根ざす」をスローガンとして掲げている香川大学のもと、香川県内各地の魅力を発信できるメディア媒体としての活動を実現できた。番組制作においては、昨今観光が敬遠されていることもあり、香川県の観光地を紹介する機会が減ってしまった。しかし、その分、マクロ的に「地域」を取り上げ、観光地だけでなく、お店や地域の雰囲気など、様々な角度からの香川の魅力も紹介する番組を制作することで、より地域密着型のラジオ番組にすることができた。

また、他大学交流や学内での交流においても成果が現れていると考える。残念ながら、

今年度はリモートでの他大学交流であったが、毎年継続して広島経済大学の「FM ハムスター運営プロジェクト」と立命館大学産業社会学部の坂田 謙司先生のゼミ生との交流は、大学生によるラジオ番組とはどのようなものなのか、を考える機会となった。また同時に、他大学の中でも数少ないラジオ番組の制作をしている学生プロジェクトとの交流を持つことでモチベーションの変化や他県への香川大学の情報発信ができた。学内の交流においては、経済学部や農学部に所属している学生団体やプロジェクトをゲストでお呼びし、香川大学の取り組みを紹介してきた。学内での交流を持つことで、双方のプロジェクトにおいてメリットがあり、香川大学の情報発信媒体の1つになれているのではないかと考える。



図 2 他大学とのオンライン交流会の様子

5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

本プロジェクトの主たる活動の一つとしてラジオ番組制作が挙げられるが、コロナ禍の現状の中、その過程における影響及び効果について2点述べる。

1点目は、新型コロナウイルスによる活動制限を受けつつも活動を継続できたことである。例年の収録では、1つのコーナーに対して複数人で収録を行い「トークセッション」を放送することが多かった。しかし、今年度は感染症対策のために入校禁止期間が設けられたり、対面での活動ができなかったりしたために、複数人での収録が不可能な時期が長かった。FM 高松との契約上、毎月番組を作り続けなければならなかったこともあり、必然と「1人喋り」でのコーナーを作る機会が急増した。これにはメンバー全員が経験したことなかったものであったため苦戦したが、番組を作り続けることができた。これは、それぞれが現代の状況に対応し努力をしてきたことによる1つの結果ではないかと思う。



図 3 リンクアップとっしー氏の講演会にて

2点目は、対人対話・企画編集の技術を身につけられたことである。番組作成に関する会議や企画だけでなく、実際の収録や機器操作など番組制作に携わることで、汎用かつ実用的な技術を身につけることができた。ここで培った技術はラジオ番組の制作だけでなく、社会に出て職務を行う際にも役に立つ経験や知識となっていると考える。

6. 反省点・今後の展望（計画）・感想等

本年度も様々な方にご協力いただき、活動をすることができた。活動の中での反省点は2つ挙げられる。1つ目は、子どもラジオセミナーの開催を中止したことである。新型コロナウイルスの影響により、子どもたちを集めてラジオ番組を収録するという昨年度行なったような形での開催は不可能であった。代替策などの検討もしたのだが、大学の規約を考慮すると、対面での開催は難しいこと、対象が小学生であるために、リモートでの開催が容易ではないと判断したことから、今年度内での開催は断念した。来年度の取り組みとして、時期を見ながらではあるが、リモートでの開催か対面での開催という選択から始め、どちらの場合でも開催できるように尽力していきたい。2つ目は、認知度の低さである。年度初めには YouTube でのアーカイブ配信やアプリを使った生配信を行ってきたが、これまで以上の認知度の向上に繋がった結果が持たずに途中で断念した。本プロジェクトのラジオ番組制作方法としては、全て収録で行っているが、今年度の活動を通して、生放送による放送を増やしていきたいという今後の展望を抱くようになった。来年度は、「stand.FM」という音声プラットフォームアプリと Twitter を駆使して、新たな聴取者を獲得するとともに、生配信ができる環境を整え、ラジオ番組作成の頻度を上げていくことで、認知度の向上及び番組作成技術の研鑽を行いたい。

全体的な活動の振り返りとしては、新型コロナウイルスによる活動制限の上、メンバーが少人数であることから、不慣れな 1 人だけ出演のコーナー制作をする機会が急増し、コーナーの固定化が目立っていた。しかし、年度の後半にはリモートでの収録など、それぞれが工夫をすることで、以前の形に近い番組の作成が行えるようになった。今後とも、幅広い番組の企画の考案や新メンバーの募集をしていくことで、たくさんの人にこのプロジェクトに関わってもらい、より香川の魅力を伝えることができる媒体として成長していきたい。



図 4 感染対策を行った上での収録の様子

7. 実施メンバー

代表者 杉野 航洋 (教育学部 4年)
 構成員 向山 快 (経済学部 3年) 中村 香月 (経済学部 3年)
 山下 日奈子 (経済学部 3年) 摺田 真幸 (創造工学部 3年)
 中嶋 日菜子 (農学部 2年) 木村 聡喜 (経済学部 2年)

8. 執行経費内訳書

活動予算の執行状況について

| 配分予算額 (円) | | 200,000 | | |
|----------------|----|---------|---------|-----------------|
| 配分予算 (品目等) | 数量 | 単価 (円) | 金額 (円) | 備考 |
| 電波使用量 | 9 | 5,500 | 49,500 | 7月～3月 |
| 県内研修に係る交通費 | | | | |
| 電車賃「高松-宇都宮」 | 2 | 1,120 | 2,240 | 往復 |
| 県内研修に係る入場料 | | | | |
| 四国水族館 | 2 | 2,200 | 4,400 | |
| 講演会謝礼 | 1 | 10,000 | 10,000 | 1時間につき 5000円 |
| 東京研修予算の代替 物品購入 | | | | |
| ダイナミックマイク | 2 | 5,693 | 11,386 | |
| サンプラー | 1 | 12,973 | 12,973 | |
| ポータブル HDD | 1 | 8,180 | 8,180 | |
| インタビューマイク | 1 | 14,080 | 14,080 | |
| 物品購入 | | | | |
| Blu-ray ドライバー | 1 | 9,981 | 9,981 | |
| ヘッドフォン | 2 | 5,800 | 11,600 | |
| マイクカバー | 1 | 999 | 999 | |
| ヘッドフォンジャックアダプタ | 1 | 996 | 996 | |
| 効果音素材 CD | 5 | | 14,244 | |
| 合計 | | | 150,579 | |
| 残金 | | | 49,421 | ※なお残金は 大学に返還 |